

開館20周年記念特別展

南吉と良寛

～ 処女出版『良寛物語 手毬と鉢の子』の世界 ～

2014年
7/19^土
11/3^{祝月}

【開館時間】 9時30分～17時30分

【休館日】 7/22^火・28^月、8/4^月・18^月・25^日、

9/1^月・8^月・9^日・16^日、

10/6^日・14^日・15^日・20^日・27^日

【観覧料】 高校生以上 210円(中学生以下 無料)

※常設展もご覧いただけます

ミュージアムトーク

7/19^土・30^火、8/2^土・3^日・16^土、

9/23^火・10/18^土

13時30分～14時 学芸員が特別展の解説をします

朗読と解説で楽しむ『良寛物語』

8/2^土 10時30分～11時15分

朗読泉の会 解説 学芸員

『良寛物語』に登場するウグイス笛をつくろう

8/2^土 10時～12時、8/15^金 13時30分～15時30分

300円 中学生以下は保護者と参加してください

母の故郷の佐渡島を見つめる良寛像(出雲崎町) 撮影 遠藤純

新美南吉記念館

〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1
TEL (0569)26-4888 FAX (0569)26-4889
【交通】 名鉄河和線 / 半田口駅より西へ徒歩20分
知多半島道路 / 半田中央ICより東へ5分



矢勝川堤の彼岸花(9月下旬～10月上旬)
「ごんぎつね」の舞台の川に200万本の
彼岸花が咲きます。
※開花期のイベント・駐車場規制については
ホームページ等でご確認ください。

開館20周年記念特別展

南吉と良寛

～処女出版『良寛物語 手毬と鉢の子』の世界～

2014年

7月19日(土)

～11月3日(祝)月

1941年(昭和16)10月、新美南吉は東京の学習社から『良寛物語 手毬と鉢の子』を出版しました。南吉にとっては、処女出版であると同時に一番の長編でもある重要な作品ですが、近年は全集でしか読むことができませんでした。

新美南吉生誕100年の昨年、中日新聞社が『良寛物語 手毬と鉢の子』を単行本として復刊しました。読みやすく新字新仮名に直され、注釈もついた現代版の刊行によって、知られざる名作に再び光があたろうとしています。

江戸時代後期の僧良寛は、厳しい修行を積みながらも、ふるさとの越後に戻ってからは寺を持たず、子どもと遊び、里人と交わりながら自由に生きた人でした。南吉はそうした良寛の何に魅かれ、作品の中にどんな思いを込めたのでしょうか。

本展では、30年以上にわたって良寛のふるさとを撮り続けてきた写真家、遠藤純氏の作品と、『良寛物語 手毬と鉢の子』成立に関わる豊富な資料を通して、良寛と南吉、二人の世界をご紹介します。人を慈しみ愛した良寛の心とその生きざまに憧れた南吉の思いを感じていただければ幸いです。



『良寛物語 手毬と鉢の子』
(学習社・1941年)

第一章 良寛とふるさと越後

・遠藤純氏写真展

第二章 『良寛物語』の誕生

- ・偶然の執筆依頼
- ・初めての経験
- ・全17話の紹介

第三章 『良寛物語』の中の南吉童話

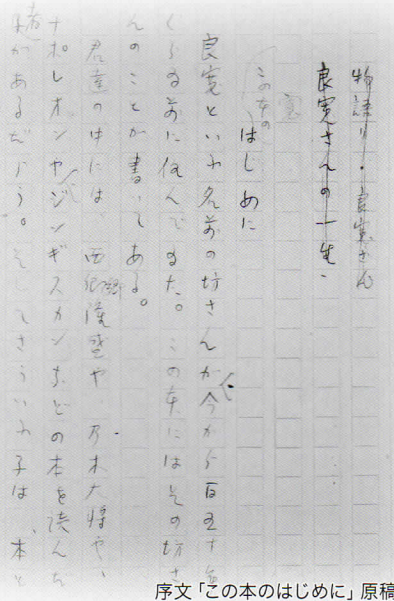
第四章 『良寛物語』に込めた思い

- ・理想の生き方を求めて
- ・人恋しの物語

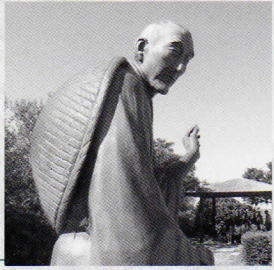
毬つき体験コーナー



南吉が教え子に贈った献辞入りの『良寛物語』



序文「この本のはじめに」原稿



りょう かん
良寛

1758年～1831年 「良寛と夕日の丘公園」(出雲崎町)の良寛像
越後国出雲崎(現在の新潟県三島郡出雲崎町)で名主を務める橘屋(山本家)の長男として生まれる。幼名栄蔵。17歳(満年齢)で出家し良寛と名乗る。備中国玉島(現在の岡山県倉敷市)の円通寺での修行、全国行脚を経て、38歳で越後に戻り、托鉢をしながら国上山の五合庵などに暮らす。子どもと毬つき遊びに興じ、里人と酒を酌み交わす奔放な人柄で知られる一方で、その独創的な書は和様の極致と言われ、数多くの詩歌も高く評価されている。

〈会期中の行事〉

新美南吉生誕祭

7月30日(土)～8月3日(日)

- ・誕生式典 7月30日(土)
 - ・南吉メルヘン行列&宵祭り 8月2日(土)
 - ・あつまろうみんなの南吉展 8月3日(日)
- ※期間中は入館無料

ごんの秋まつり

9月19日(金)～10月5日(日)

- ・矢勝川に咲く200万本の彼岸花と各種行事

新美南吉記念館

TEL0569-26-4888

詳しくはホームページでご確認ください。

新美南吉記念館 検索

